



本気になって、夢中になって創り上げた運動会

学校長 堀部 尚久

梅雨入りを前に、紫陽花の花も日増しに色濃く感じられるようになりました。花壇や鉢で育てている植物の生長も見られ、改めてこれからの雨の恵みが大切な時期であることに気付かされます。

さて、5月28日(土)、熱中症が懸念される中で実施した「川上小学校 第131回大運動会」は、観る人にたくさんの感動を与え、成功裏のうちに終わることができました。今回の運動会もコロナ禍の状況下での実施で、様々な面で熱中症対策とともに感染防止対策を講じながらの運動会となりましたが、保護者の皆様、また地域の代表として参観いただいたご来賓の皆様には、朝早くから温かい拍手を賜りました。心より感謝申しあげます。また、当日はもちろんのこと、前日も時間を掛けて遅くまで様々な準備や打ち合わせに労を惜しまず支え続けてくださったPTA役員・実行委員・保護者有志の皆様には、重ねてお礼を申しあげます。本当にありがとうございました。

今年の運動会のテーマは、「みんながスター 全力 協力 川上パワー」でした。このスローガンにも、これまで大事にしてきた川上魂がしっかりと受け継がれています。友達といっしょに重ねてきた苦労や努力をばねに一人ひとりが全力を出し切る姿。互いに励まし合い支え合い、力を合わせて築き上げてきた友達とのチームワークを信じながらその成果を発揮する姿。そんな川上小の仲間たちが輝く姿を、一人ひとりが心から応援し合える運動会にしたいという思いや願いが込められていました。連休明けから本格的に始まった練習を見ながら、朝会で子どもたちに頑張してほしいこととして話してきたことは、「最後まであきらめずに力を出し切ること」「体じゅうを使って仲間を応援すること」でした。子どもたちは、それらのことをしっかりと意識し、1回1回の練習を楽しみながら一生懸命に練習を重ねました。

当日の子どもたちの姿は、本当に素晴らしかったです。前日までの練習にも増して、ひた向きに一生懸命に頑張る姿には、自信がみなぎっていました。笑顔にあふれていました。徒競走では、ゴールまであきらめずに歯を食いしばって走る子どもたちに、頼もしさを感じました。4色対抗リレーでも、抜きつ、追いつつという状況が繰り返され、スタートからゴールまで一時も目を離すことができませんでした。集団演技では、どの学年も笑顔がいっぱいで、仲間と共に一つの演技を楽しみながら創り上げている姿にも練習の成果が表れていました。演技を終えた子どもたちの「やり切った」という表情は、成就感に満ちた輝く姿でした。高学年が引き継いで演じてきた「川上ソーラン～魅せろ川上魂」では、一人ひとりのダイナミックできれいのある力強い動きとともに、仲間との信頼をも感じました。

また、運動会を終始盛り上げ続けた応援団の姿には心から感激しました。掛け声や動き、そして真剣な表情で応援をリードした子どもたちは、しっかりとその役割を果たしました。一生懸命に応援をし合う子どもたちからは、仲間を思う優しい心を感じました。縦割りグループ競技でも、学年を超えた励ましやいたわり、ねぎらいなど、子どもたちの声掛けや手助けが本当に微笑ましくも感じられました。高学年の子どもたちの係活動でも、自ら進んで体を動かすという責任感が感じられました。

これらの姿は、どの姿を見ても、運動会テーマ「全力 協力 川上パワー」として目指した「みんながスター」となった「光り輝く姿」であったと思います。

「一生懸命走る姿、楽しんで踊る姿、力いっぱい応援する姿、勝敗で喜んだり落ち込んだり怒ったりしている姿、全てが生き生きしていて感動した」「限られた時間の中での競技・演技の完成度がすごかった」「周りの友達のことを応援しつつも、自分のやるべきことをやっていた」「マスクを外した子どもたちの姿に、涙がでそうだった」「活気あふれるよい運動会。縦割りによって、助ける側と助けてもらう側、双方に良い影響があった」「自分の競技以上に、友達や同じ色の子たちをみんなで応援しているのが楽しそうで、仲間意識や団結することの楽しさを感じているのが伝わってきた」「高学年が積極的に係の仕事をしたり、下学年の手をそっと引いたりする姿に、普段の川上小の素晴らしさを想像することができた」「高学年の子どもたちを、低学年の子どもたちが、見習ったり憧れをもったりするのを感じる」など、保護者や地域の皆様からも、アンケートを通して本当にたくさんのお褒めや価値付けの言葉をいただきました。演技・競技種目に限らず、様々な場面で「輝く姿」を見せ、観る人にたくさんの感動を与えた子どもたちに、改めて大きな拍手を送りたいと思います。

学校行事をはじめとしたすべての教育活動は、子どもたちに様々な刺激を与えたり、働き掛けたりしながら、興味・関心の対象に気付かせて「意欲の扉」を開き、無限の可能性を引き出し、輝かせていく営みの積み重ねであるといえます。そう考えると、私たちは、結果以上に、「どのように学んできたか」、「どのように取り組んできたか」という学びや活動の過程(プロセス)を常に大事にしたいと思っています。子どもたちが目標やめあてをもち、その達成や実現を目指していくことを経て自らの取組を振り返り、さらに友達や仲間と磨き合うことを通して、できた喜びや分かった嬉しさ、時には難しさや悔しさを分かち合うことになるはずで

今年の「本気になって、夢中になって、みんなの心をひとつにして創り上げた運動会」には、川上小が大事にしてきた、たくさんの教育的な価値があると信じています。1年生にとっては川上小での初めての運動会、そして6年生にとっては小学校生活最後の運動会でした。子どもたちが育んできた育ちが、今後の学びや生活によってさらに磨かれますようにと願いながら、慈雨の季節6月を迎えます。